

輸出事業計画

※申請者名：JAPAN vegetables(株)、品目：かんしょ・干芋

1. 輸出における現状と課題

現状は、マレーシアの食料品店から、かんしょ・干芋のマレーシアへの販売確約をいただいています。
課題は、同社から要求されているISO22000認証取得、輸出先国の使用農薬基準、農薬残留基準に対応した栽培管理を徹底すると共に、水や堆肥、有機質肥料については病原微生物の汚染がないよう圃場の衛生管理を行うことです。
また、かんしょは収穫時に傷がつくと、傷口から病原菌が入って腐敗したり、水分が抜けて味が落ちてしまいます。このため、収穫後に高温多湿環境で一定時間保管するキュアリング処理を施す必要があります。キュアリングに必要な温湿度管理に対応できる保管庫を確保し、かんしょの貯蔵性を向上させて安定出荷につなげていくことが課題です。

2. 輸出事業計画の取組内容

メインターゲット国はマレーシア、台湾、香港、EUです。
かんしょ生産量を増やすため、北海道別海地区の100ヘクタールの借地契約交渉を進めて、生産量増加につなげていきます。深谷地区農家にかんしょ苗の販売を行って、栽培したかんしょを買い取る委託生産作の確保を進めています。また、事業承継した前橋ファーム・神栖ファームでのかんしょ生産も検討を進めます。
かんしょ・干芋生産輸出のため、加工工場と干芋生産設備の施設整備・機械導入、かんしょ生芋貯蔵庫新設を行います。
ISO22000に対応できる施設・機械を導入することで、国内外の衛生規制に対応します。ISO22000認証取得を2024年3月を予定しています。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

弊社取締役の荻野が創業した日本語学校ISI学園卒業生の勤務先A社やISI学園現役学生として受け入れているB社や元銀行マンISI学園校長からの紹介先C社や義弟の経営するマイクロダイエット加工食品会社D社を販売パートナーとして輸出事業を行います。
また、HACCPコンサルタント「コンサルティングオフィス高橋」からISO22000導入支援、JETROから海外展示会について助言をもらう予定です。
海外販路開拓コンサルから助言をもらい、輸出事業計画のPDCAサイクルを回してまいります。

4. 輸出目標額

かんしょ：令和5年3月期 0千円、令和10年3月期輸出額 12,555千円
輸出量45,000Kg、生産量60,000Kg
輸出先国 マレーシア、台湾、香港、EU

干芋：令和5年3月期 0千円、令和10年3月期輸出額 90,000千円
輸出量30,000Kg、生産量100,000Kg
輸出先国 マレーシア、台湾、香港、EU